九大三景

六本松

箱崎 伊都

▷4◁

# 田島寮 バンカラの歴史にも幕

小雪が舞った前日からの寒波が残った昨年12月最初の日曜日。六本松キャンパスに近い福岡市城南区田島の九州大学田島寮の中庭に、子供から年配者までが集まってきた。地域住民と寮生が触れ合う恒例の餅つき大会は、和やかな雰囲気に包まれた。

近くの浦上幸江さん(63)は「若い子たちに交じって楽しい。おばちゃんと言ってくれるし、子供みたいなものです」と言いながら餅を丸めた。「おいしいね」。用意した40キロの米はあんこ餅やぜんざいにしてみんなで食べた。

◇

田島寮の歴史は古い。前身は旧制福岡高等学校当時の1922(大正11)年にできた「学而寮」。58(昭和33)年に六本松の教養部内から現在地に移転を完了、77年に改築された。4階建て3棟に1、2年の男子学生約200人が暮らす。5畳一間の家賃は月額4500円に共益費4300円。ワンルームを借りるのに比べれば格段に安い。寝食を共にする中で寮の運営について深夜まで議論することもある。

「他の部屋の寮生とあまりかかわらないかと思っていたけど、横と縦のつながりが強い。卒業生がやって来て『めしでも食いに行くか』と誘われることもあります」。工学部1年の寮長、池田恭彰さん(19)=熊本県玉名市出身=は話す。

寮には代々受け継がれてきた行事があった。4月の新入生歓迎行事で、1年生全員が白いパンツ1枚で街を練り歩く「パンツ行進」。5月末から7月にかけ開かれるのが最大イベント「寮祭」。毎週のようにサッカーやマラソン大会などを繰り広げ、各棟で得点を競う。1位になった棟のグループは7月初めに開く「樽(たる)みこし」で〝名誉〟ある赤ふんどしを付けることができる。2位は青、3位は黄色ふんどしを付けて市中心部から寮までの5キロを酒樽を乗せた重さ約800キロのみこしを担ぐ伝統行事。池田さんは「寮祭はみんなでやりきったという達成感があった」と振り返る。

◇

バンカラの気風を継承してきた田島寮も六本松キャンパスの閉鎖に伴い3月、長い歴史に幕を下ろす。みんなが笑顔になった餅つき大会ももう開かれることはない。最後の寮長となる池田さんは「寮の伝統を後輩たちに伝えられなくなるのは寂しい。でも仲間とのきずなは深まった」。

伊都キャンパスに寮はできたが男女、留学生も一緒になった。

【早田利信】

つきたての餅を地域住民も交えて丸める田島寮の学生たち